

群 教 セ	G01 - 03
	平 17.230 集

中学校国語科における俳句学習支援ソフト 「俳句入門・季語蔵」の作成と活用

特別研修員 針谷 朋之 (吉井町立入野中学校)

〔研究の概要〕

本研究では、中学校国語科の俳句学習で、生徒が知りたい情報（有名な俳句・きまりや表現技法・季語）を何度でも確認しながら句作できる俳句学習支援ソフト「俳句入門・季語蔵」を作成した。作成にあたっては、生徒がよく使う季語や表現技法を中心に選び、静止画や生徒作品を多く取り入れて解説を加えた。このソフトを活用することで、俳句創作の入門期である生徒は、俳句の基本を身に付け、進んで俳句による表現活動に取り組めるようになった。

キーワード 【国語 - 中 俳句 季語 表現力 古典 マルチメディア】

主題設定の理由

世はまさに日本語ブーム。この現象は、裏を返せば日本語の乱れに対する危機感の表れとも言える。中学校国語科の学習場面でも、語彙が少なく、日本語が正しく使えない生徒が増えている。一人一人の言語表現が貧弱で、議論がかみ合わず、また、作文や詩歌の創作などの表現活動を苦手とする生徒も多く、学習の深まりを妨げている。

中学校学習指導要領では、国語科の目標を「国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにし、国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる。」としている。これを受けて、国語科における俳句の学習でも、俳句を正しく理解して読み味わうとともに、十七音で季節感や思いを表現するという授業が行われている。

俳句のもつ有季（季語を入れる）定型（五七五の十七音で構成する）の単純な形式は、短い言葉に作者の思いが凝縮され、深く追究すれば難しい文芸の一つである。実際に俳句を詠む場面でも、なかなか取りかかれない生徒が多い。俳句に関する生徒へのアンケートでは、78%の生徒が適切な季語が思いつかない、思い浮かぶ季語が偏ってしまうという悩みを持ち、また、56%の生徒が、どんな俳句がよい俳句なのか分からない、と回答していて、これらの点が俳句を詠む上での問題となっている。

そこで、四季を代表する有名な俳句を鑑賞する

ことで俳句の基本形式を知ったり、俳句の基本となる五七五の十七音による構成方法、季語の選び方や表現技法の使い方などを何度でも確認することができたり、さらには、季語一覧で季語を選ぶと解説や例句が見られたり、五七五の上の句と下の句とを瞬時に入れ替えて倒置法的な俳句がつけられたりする俳句学習支援ソフト「俳句入門・季語蔵」を作成することを考えた。

そして、俳句創作の入門期である中学校国語科の授業で活用すれば、生徒は、俳句の基本が身に付き、進んで俳句による表現活動に取り組むようになると考え、本主題を設定した。

研究のねらい

中学校国語科の俳句学習で、俳句学習支援ソフト「俳句入門・季語蔵」を作成し活用することで、生徒が、十七音による構成方法、季語の選び方や表現技法の使い方といった俳句の基本を身に付け、進んで俳句による表現活動に取り組むようにする上での有効性を、授業実践を通して明らかにする。

研究の見通し

俳句の作り方の基本を知ったり、倒置法的な俳句を簡単につくることができたりする俳句学習支援ソフト「俳句入門・季語蔵」を作成し活用すれば、俳句創作の入門期である生徒は、俳句の基本を身に付け、進んで俳句による表現活動に取り組むようになるであろう。

研究の内容

1 「俳句入門・季語蔵」の概要

(1) 基本的な考え方

中学校国語科の俳句学習で基本となるのは、まず、有季定型の形式を身に付けることである。季節にふさわしい季語を選んで用いることで、自然の変化に目を向け、五七五のリズムに言葉を乗せて自己表現できるようにする。

さらに、切れ字や表現技法を使って自分の思いを表すことで、豊かな表現力を身に付けられるようにすることが目標となる。有名な俳句を鑑賞し、基本を学べば、生徒は俳句が好きになり、進んで俳句を詠むようになるのではないかと考える。

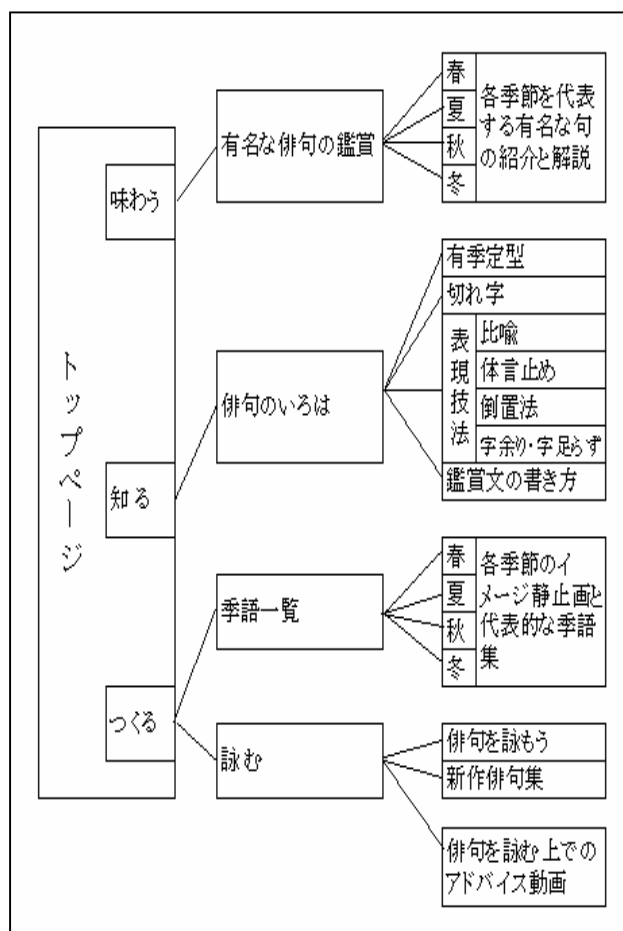
そこで、Web形式で俳句学習支援ソフト「俳句入門・季語蔵」を作成する。本ソフトでは、「味わう（有名な俳句の鑑賞）」「知る（俳句のいろは）」のページで、俳句の基本となる有季定型や表現技法の使い方などを、繰り返し確認しながら身に付けられるようにする。さらに、「つくる（季語一覧、詠む）」のページでは、倒置法的な俳句が作れるなど俳句の創作が簡単にできるように構成し（図1）進んで俳句による表現活動に取り組めるようにする。

(2) 作成上の工夫

- 有名な俳句の鑑賞では、生徒が俳句を身近に感じられるよう、各季節を代表する俳句を2句ずつ取り上げ、解説や作者の紹介をする。句にまつわる静止画が表示され、作者の紹介や解説は別ウィンドウで表示されるようにする。
- 俳句のいろはでは、有季定型や表現技法など俳句の基本事項を確認できるようにする。切れ字や倒置法などの表現技法については、用語をクリックすると、別ウィンドウで説明と使用例とが表示されるようにする。
- 季節感あふれる静止画をクリックすると、それにふさわしい季語群が一覧できるようにする。中学生が好む季語を数多く選び、季語をクリックすると、別ウィンドウで季語の解説や例句が表示されるようにする。また、生徒が創作した俳句や考案した季語群を新たに取り込んでいけるようにする。
- 五七五の十七音で構成された俳句は、上の句と下の句とを入れ替えることにより、倒置法的用法の味わい深い作品になることがある。そこで俳句を入力すれば、瞬時に上の句と下の句と

が入れ替わり、元の俳句と倒置法的な俳句とが対比できるよう、表計算ソフトを活用した画面を取り入れる。

図1 「俳句入門・季語蔵」の構成図



2 「俳句入門・季語蔵」の内容

(1) トップページ

起動すると、俳句入門の雰囲気にあうよう、和風の画面が表示される（図2）。

図2 トップページ



「俳句入門・季語蔵」は、大きく分けて「味わう（有名な俳句の鑑賞）」「知る（俳句のいろは）」「つくる（季語一覧、詠む）」の三つの項目からなり、生徒の使用目的に合わせて、選べるようになってい

(2) 「味わう(有名な俳句の鑑賞)」のページ

有名な俳句を味わうページでは、春夏秋冬をイメージした身近な風景の静止画をクリックすると、各季節を代表する名句と作者、句に関連した静止画が表示される。生徒が名句を読み味わい、有季定型の俳句の基本形式が分かる画面が表示される。また、作者の紹介や句にまつわる豆知識が別ウィンドウで表示されることで、日本を代表する名句についての情報を得ることができる(図3)。

(3) 「知る(俳句のいろは)」のページ

俳句について知るページでは、「俳句のいろは」と題して、俳句を詠む上での基本的な知識が表示される(図4)。俳句の基本となる有季定型についての解説、切れ字の種類と使い方、比喻や体言止め、倒置法といった様々な表現技法についての解説が、用語をクリックすると別ウィンドウで表示される。さらに、名句や生徒作品などを例に用いて使い方を説明し、生徒にとって身近で、分かり易いようにしている。また、つくった俳句を相互鑑賞するための、鑑賞文の書き方の基本や具体例も表示され、鑑賞文を書くときの参考にすることができる。

(4) 「つくる(季語一覧、詠む)」のページ

つくるページは、「季語一覧」と「詠む」の二つに分かれる。季語一覧のページは、春夏秋冬をイメージした身近な風景の静止画(図5)をクリックすると、季語集が表示される。季語集は、生徒が使うことが多い季語や現代風の季語を中心に構成している。季語をクリックすると、季語に関連する静止画や豆知識が別ウィンドウで表示されると共に、その季語を使った有名な句や生徒作品も表示される(図6)。季語の一覧については、季節ごとに五十音順と音数順の二種類のページがあり、選択して調べられるようになっている。

季語一覧で季語を選びながら、俳句をつくるページ「俳句を詠もう」で創作することができる。このページでは、上の句、中の句、下の句と順に入力すると、上の句と下の句とが瞬時に入れ替わるようになっている(図7)。元の句と倒置法的な句とが並んで表示されることで、生徒は、自分で創作した俳句の新たな一面を発見することができる。つくった俳句は、生徒の新作俳句集に表示され、互いの作品を見ることができる。さらに、俳句を詠む上でのアドバイス動画を見ることで、創作上の留意点やアドバイスを得たり、俳句を詠むことの楽しさを知ったりすることができる。

図3 有名な俳句の鑑賞のページ

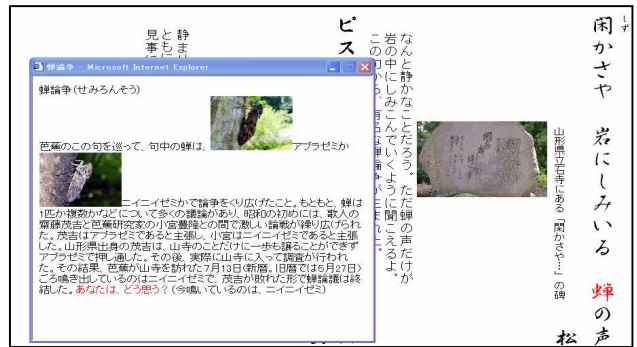


図4 俳句のいろはのページ

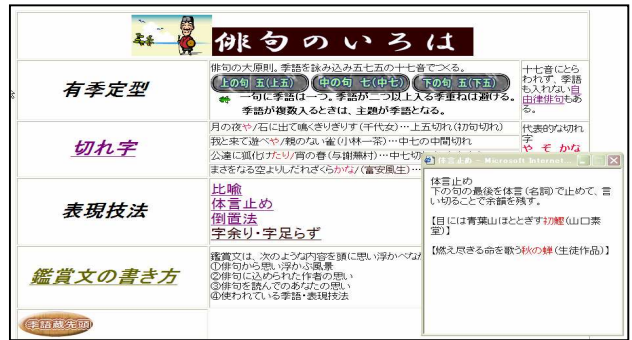


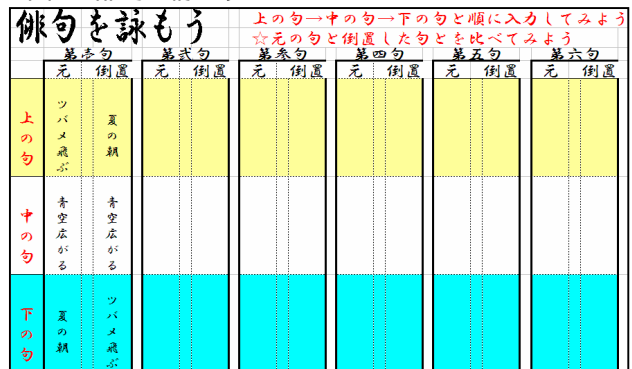
図5 季語一覧のページ



図6 季節ごとの季語一覧のページ



図7 俳句を詠もうのページ



実践の結果と考察

1 授業実践計画

- 対 象 吉井町立入野中学校 3 年
- 単元名 古典を味わう『おくのほそ道』（全 7 時間）
- 目 標 俳諧紀行文『おくのほそ道』を芭蕉の生き方に視点を当てて読み味わうことで、古人の生き方や自然との出会い、ものの考え方、古文特有のリズム感や表現方法について理解する。さらに俳句の創作活動を通して、文字言語による表現の楽しさを味わう。
- 単元計画

学習内容	時	指導上の支援及び留意点
○『おくのほそ道』を読もう ・紀行文と俳句 ・芭蕉の人生と『おくのほそ道』 ・俳句の鑑賞	4 時	・『おくのほそ道』の「旅立ち」、「平泉」、「立石寺」を読み取ることに より、芭蕉の生き方について考えられるようにする。現代の旅と江戸 時代旅とを比較することにより、芭蕉の生き方が探求できるように する。 ・俳句の着眼点、表現技法、推敲の大切さが分かるよう支援する。
○季節に合った俳句を詠もう ・「俳句入門・季語蔵」の活用 ・季節に合った俳句の創作と相互鑑賞 ・級友の俳句の鑑賞文を書く	2 時 (本時 2 / 2)	・「俳句入門・季語蔵」を使って、パソコン室で俳句の基本を学びなが ら創作できるようにする。 ・季語一覧や「俳句を詠もう」を使って、季節に合った俳句の創作がで きるようにする。 ・新作俳句集にある級友の句の中から気に入った句を選び、鑑賞文を作 成し、互いの作品のよさや着眼点の違いに気付かせる。鑑賞文を書く 時には、「俳句入門・季語蔵」の中の鑑賞文の書き方を参考にする。
○学級句会を開こう ・野外に出て俳句を詠む ・俳句を毛筆で書く ・作品の相互鑑賞会を開く	1 時	・『おくのほそ道』の学習で学んだことや「俳句入門・季語蔵」での学 習を基に、野外に出て俳句を詠む。 ・古人が、旅（野）に出て、俳句を詠んだ心境を疑似体験する。 ・3 句ほど詠んだら、教室で本日の自分の秀句を毛筆でしたためる。 ・毛筆作品を展示して相互鑑賞会を開く。

2 授業実践「季節に合った俳句を詠もう」(6/7時) 11 月 7 日(月) 於 パソコン室

- 本時のねらい
 - ・俳句学習支援ソフト「俳句入門・季語蔵」を使って、俳句の基本を確認しながら季節に合った俳句を詠むことで、季節の移ろいや自分の思いを表現する。
 - ・でき上がった作品を相互鑑賞することで互いの作品のよさを読み味わう。
- 準 備
 - 俳句学習支援ソフト「俳句入門・季語蔵」(サーバ内へ) 自己評価カード
- 展 開

学習内容	時	指導上の支援及び留意点	評価の観点
○季節に合った俳句を詠もう ・「俳句入門・季語蔵」を使って季節感あふれる俳句をつくる。	25 分	・「俳句入門・季語蔵」の季語一覧や有名な俳句の鑑賞のページなどを参考にしながら、季節にふさわしい俳句が詠めるよう、支援する。 ・「つくる」ページの上の句と下の句とが入れ替わる機能を使い、倒置法的な作品のよさや思いがけない組み合わせの妙にも気付かせる。 ・「俳句を詠む上でのアドバイス動画」を開き、句作する時の注意点などを動画から得よう伝える。	・作成したソフトを有効に活用して、俳句を創作しているか。 【関心・意欲・態度】

		・パソコン室のベランダに出て、外の風に吹かれ、風景を見ながら詠むことも勧める。 ・出来上がった俳句は、コンピュータ上の新作俳句集に収めていくよう指示する。	
○級友の作品の鑑賞文を書こう。 ・鑑賞文の基本形を、ソフトの中にある「鑑賞文の書き方」のページを使って確認する。 ・鑑賞文を書き、相互に発表し合う。	20分	・新作俳句集から、気に入った作品を選択できるようにする。 ・鑑賞文については、ソフトの中にある「鑑賞文の書き方」のページを参照するよう伝える。鑑賞文は、紙に書いても、コンピュータで入力してもよい。 ・俳句の作者に鑑賞文を渡し、作品のよさをひとこと付け加えながら、相互交流する。	・気に入った俳句を選び、鑑賞文を書くことで、相互鑑賞できたか。 【読むこと】
○自己評価カードで本時の学習のまとめをする。 ○次時について知り、俳句創作への意欲を持つ。	5分	・「俳句入門・季語蔵」を用いた俳句づくりに意欲的に取り組めたか、表現技法などがうまく使えたか、自己評価カードにまとめさせる。 ・次時は、野外に出て俳句を作ることを伝える。また、詠んだ俳句から秀句を選び、毛筆を用いて書道作品をつくるので、その準備も伝える。	・季節に合った俳句を詠み、自己表現できたか。 【書くこと】

3 結果と考察

(1) 俳句の基本が身に付く

本実践は、「季節に合った俳句を詠もう」というねらいで、俳句学習支援ソフト「俳句入門・季語蔵」を活用した。生徒は、コンピュータを使って俳句をつくるのは初めての経験だったので、興味深く取り組んだ。本ソフトの「有名な俳句の鑑賞」、「俳句のいろは」や「季語一覧」

図8 コンピュータを使っている句作

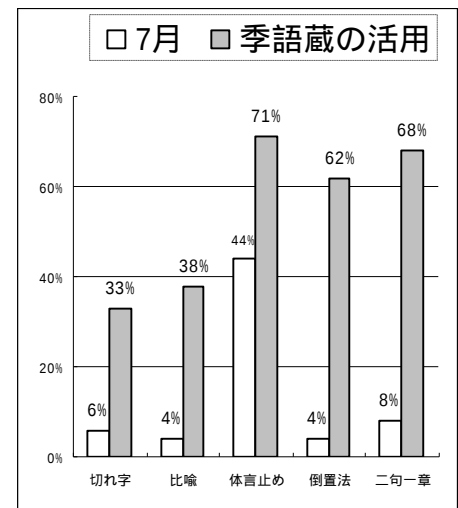


のページなどで基本事項を繰り返し確認しながら、俳句を詠んでいた(図8)。「季語がたくさん載っているの参考になる。」「(季語をクリックすると)別ウィンドウに出てくる写真と作品例が参考になる。」「季語をたくさん知ることができて嬉しい。風景が思い浮かぶ感じがする。」「表現技法をたくさん使ってみたい。」といった声が授業中に多く聞かれ、本ソフトが、俳句を詠む上での手助けとなっていた。

自己評価カードには、自分で詠んだ俳句を書くとともに、有季定型や表現技法がきちんと使

えたかを記入し、その使用状況を調べた。その結果からも、本ソフトを用いた学習により、有季定型や表現技法をうまく使って俳句が詠めたことが分かった。特に、有季や定型といった基本的な事項は、全員が正しく使うことができるようになった。

図9 切れ字・技法の使用率の変化



た。また、ほぼ全員の生徒が、切れ字や体言止めなどの表現技法を作品に積極的に取り入れ、7月の創作時に比べて、表現技法別の使用率も向上した(図9)。「切れ字とかをうまく使えなかったの、次は使いたい。」という、意欲的な感想が数多く見られた。

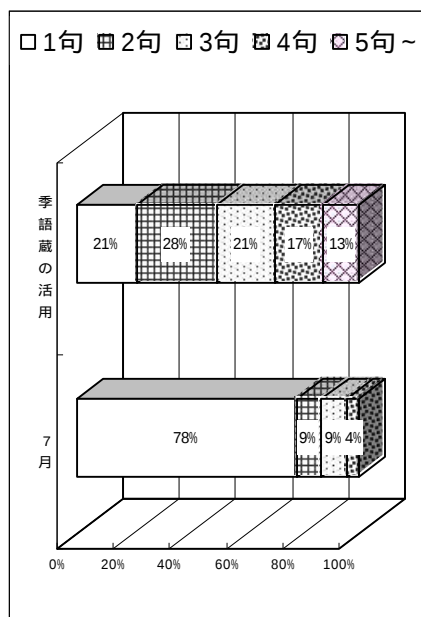
さらに、俳句の内容を見ても、7月の創作では、『店の中扇子が並ぶ季節になりにけり』と字余りで、切れ字の使い方も不適切であった作品

をつくっていた生徒が、『私だけ見られる夜の名月や』『道草で金木犀を一目見て』といった、切れ字や表現技法を正しく使った、季節感あふれる質の高い俳句を詠むことができた。

(2) 進んで俳句による表現活動に取り組む

本ソフトを使った学習で、生徒の1時間当たりの句作数を調べ、7月の創作と比較したところ、句作数が増えたことが分かった(図10)。7月は、一人平均の句作数は、1.3句であったが、今回の学習では、平均2.7句つくっていて、最も多い生徒は10句つくることができた。

図10 句作数の変化



さらに、本ソフトを使うことで、互いの作品が鑑賞し合えたり(図11)、倒置法的な作品が簡単にできたりすること、生徒の創作意欲を高めた。

図11 生徒の新作俳句集

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
春待つて居眠りしているふきのとう	月の夜そよ風涼し丘の上	夕焼けに色が溶け込む赤とんぼ	蟋蟀や入場無料の演奏会	夕暮れの冷えた秋風揺るススキ	水仙と共に春待つ部屋の中	ドラグリーや悲鳴を上げる僕の靴	草の実で遊ぶ心は秋模様	冬の朝猫に負けずとなまけてる	栗のいが僕を踏むなとげを出す	縄跳びを跳んで越える寒い冬	風邪ひいて苦しむ私さきま風	もち食べて心の中も満腹に	夕焼けが垂れる稲穂を光らせる	夜更けて願いつのらす流れ星

『夜更けて願いつのらす流れ星』の句に対しては、「きれいですね。情景がよく想像できます。あなたは、いったいどんな願いを込めるのでしょうか。特に、つのらすという言葉が素敵です。」といった鑑賞文を、他の生徒が寄せた。「自分の俳句をこんなふうに見てくれているんだなあ、と嬉しかった。」「他の人の俳句を読むのは、また違った視点を感じられ、自分の作品に生かせた。」「入力すると俳句が自動的に変わるので、自分の作品が変化して面白

い。」といった感想が見られた。また詠んだ俳句数は少なくとも、「前よりいろいろな技法を使えるようになった。」「質は前より高くなった。」と、作品の質の高まりを実感した生徒もいた。

授業のまとめの自己評価では、「コンピュータで言葉を入力して、画面上で直しながらつくれるところがよかった。」「俳句に対する印象が変わった。」「日本古来の文化にふれられて楽しかった。」「難しいと思っていたが、俳句を詠む楽しさが分かった。」といった感想が多く見られた。学習する前には、39%の生徒が、俳句は苦手・嫌いと回答していたが、活用後には、87%の生徒が本ソフトを使っての俳句づくりは「楽しい。」「もっと俳句を詠みたい。」と書いていて、俳句による表現活動に積極的に取り組めたとと言える。

研究のまとめと今後の課題

1 研究のまとめ

「俳句入門・季語蔵」を使うことで、生徒は、何度でも表現技法の使い方を確かめたり、季語一覧で季語を選んだりしながら俳句をつくることができたので、俳句の基本を身に付けることができるようになった。

また、生徒は、キーボードで入力することで、倒置法的な俳句と元の俳句とを比べてから選んだり、画面上で推敲を重ねたりしながら数多くの俳句を仕上げていくことができたので、本ソフトを使うことで、進んで俳句による表現活動に取り組めるようになった。

2 今後の課題

自然体験や読書体験が少なく、季節の移ろいのイメージがわからなかったり、言葉がうまく組み合わせられなかったりして、俳句づくりをなかなか始められない生徒への手立ては、本ソフトだけでは不十分である。また、生徒の新作俳句をもとに、ソフト内の季語や例句の数も増やしていく必要がある。

参考文献

・秋元 不死男 著 『俳句入門』

角川書店(1955)

(担当指導主事 齋藤 俊明)